

第2学年社会科（地理的分野）学習指導案

1、単元名

「第2部 日本のさまざまな地域」 第3章 日本の諸地域 5節 関東地方
(教科書『中学生の地理』帝国書院 p. 224-239)

2、単元の目標

(1) 社会科としての目標

- 「なぜ、東京大都市圏に人口が集中しているのだろうか。」という学習テーマを意欲的に追究させる。
- 関東地方の地域的特色と課題を多面的・多角的に考察し、その成果をさまざまな手法で表現させる。
- 関東地方に関する統計・雨温図・主題図等の読み取りや比較、関連づけなどの地理的技能を育む。
- 関東地方の自然環境、産業、生活・文化、歴史的背景等の基礎的・基本的な知識を身につけさせる。

(2) 汎用的スキル

- 立場の違う人の意見を聞くことで自分の意見を客観的・論理的に見つめ直し、よりよく考え直すことができる。(批判的思考力)
- 自分や自分が属する集団にとっての課題や問題を発見し、その解決や目標達成をなしとげることができる。(問題解決力)

(3) 態度・価値

- 人々の生活や社会の仕組みなどを見直し、より良いものにしようとする意識やそのための社会と積極的に関わり、大切なことや良いこと、必要なことを実践しようとする。(より良い社会への意識)
- 知りたいと思う気持ち、身の回りの出来事に興味・関心を持つ態度、知りたいことや解決したいことを見つけようとする姿勢、疑問に合理的な答えを得たいと思う心を持てる。(好奇心・探究心)

3、生徒の実態

これまで学んできた歴史的分野の授業において、興味ある歴史的事象に対して積極的に「感動」や「共感」、「批判」を表現できる生徒を中心に、小グループ討論などでは各自の考えを論理的に述べ合うことができるなど、社会科に対する興味・関心の高い生徒が多い学級である。

4、単元について

①教科から見た特性

東京大都市圏への人口集中は世界でも群を抜いている。また、国内を見ても東京大都市圏の4都県以外の人口増加は愛知県、沖縄県のみであり、改めて東京大都市圏への人口の一極集中がうかがえる。「なぜ、東京大都市圏に人口は集中するのか。」等、人口集中に関して生徒が発する問いは、持続可能な社会を目指す上での本質的な問いであり、多面的に考えを深めていくことが必要なのである。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点からみた特性

本単元の授業では、他者の感想や意見に対して自分の考えを述べる場面や社会的事象の賛否を問われたときに自らの意見を客観視する場面を多く設定し、批判的思考力の育成をめざした。また、毎時の学習課題には現実の社会的課題に関する問いを設定することで、子供たちの好奇心や探究心を高め、将来の主権者として持続可能な社会を築こうとする態度を育成できると考える。

5、単元計画と資質・能力を育成する主な手立て（全8時間 本時2／8時間）

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (5時間)	・「なぜ、東京大都市圏（関東地方）に人口が集中するのだろうか。」という問いを立て、追究する。 ・東京都の地域的特色を地形、機能、産業、拡大といった視点からとらえる。	○問題解決力 ○批判的思考力 ○好奇心・探究心 ○より良い社会への意識	○生徒の身近な教材を活用した課題設定 ○多様な視点から考える必要のある問いの設定 ○資料を活用した課題解決場面を設定 ○他者との学び合いの設定
第2次 (3時間)	・東京大都市圏と隣接する地域の産業や生活の姿を、東京都との関連から考察する。 ・「持続可能な社会を目指すにあたり東京大都市圏への人口集中をどうすべきか。」という新たな問いをたてる。	○問題解決力 ○批判的思考力 ○好奇心・探究心 ○より良い社会への意識	○生徒の身近な教材を活用した課題設定 ○多様な視点から考える必要のある問いの設定 ○資料を活用した課題解決場面の設定 ○他者との学び合いの設定

6、本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・「大島駅」と「新宿三丁目駅」の景観写真の比較から設定した本時の学習課題の解決を目指し、東京に人口が集中する理由やそのことによって起こる都市型水害の対策を意欲的に追究する。
- ・都市型水害対策の一つである浸水ハザードマップを活用し、自然災害発生時における「公助・自助・共助」の考え方について考察する。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 5 分	○都営新宿線『大島駅』を『新宿三丁目駅』と比較し、違いを書き出し、発表する。 ・壁の作りが違う ・大島駅には一度のぼる階段がある ・新宿三丁目駅は歩道上だ ・大島駅にはプランターがある ・大島駅には大きな鉄の扉がついている	◇2枚の組写真をもとに、生徒の興味・関心が高まり、考える必要のあるテーマを設定する。(生徒の身近な教材を活用した課題設定：好奇心・探究心)
	「なぜ、『大島駅』には一度のぼらないと入れない階段がついているのだろうか。」 ・土地が低いことによって起こる水害対策のためだろう ・鉄の扉は水害時に閉めるはず ・プランターは土のう代わりに使うのでは	
展開 40 分	○『大島駅』近辺の地形の歴史や特色を調べ、のぼる階段は東京都による水害対策であることを検証する。 (資料「地図帳・教科書・路線に沿った標高断面図・海拔0m地帯の分布図・地盤沈下図」) ・東京都は西高東低の地形だ ・江東区は海拔0m地帯が多い ・のぼる階段がついている駅は標高が低い土地の駅らしい ・江戸時代、このあたりは海だったんだ ○多発する都市型水害の動画を視聴し、対策用に配布された江東区の浸水ハザードマップの内容を読み取る。 (資料「江東区の浸水ハザードマップ」) ・想定雨量の場合『大島駅』は約2m浸水する ・すぐ近くの堤防の上は安全そうだ ・学校は避難場所だね ・車の場合はどうすれば良いのかな ・地下鉄構内は危ない ○大島駅にいる時、「荒川の上流で堤防が決壊しました。急いで避難してください。」との放送があったら、A～Dのどの行動をとるか、個人→4人グループ→学級の順に検討する。 A 次の電車に乗って新宿方面に避難する B 近くの避難場所の第四大島小学校に避難する C 堤防で守られた荒川の河川敷に避難する D その他(自由に考える) ○「荒川氾濫」の動画を視聴後、2種類のハザードマップの存在に気づき、それぞれを批判的に考察する。 (資料「江東区の外水(洪水)ハザードマップ」) ・避難した場所は危険だった ・一人で考えるのは難しいかも ・水害の種類によってハザードマップは違うんだ ・避難先は南の埋め立て地だが、それで良いかな。 ・間に合わないかも ・海の方角に逃げるのは怖い	◇課題解決に必要な資料を発見させたり、提示したりする。(資料を活用した課題解決場面を設定：問題解決力) ◇個別思考後、「でも・・・」という問いを自分の考えに投げかけることで、意見を再度違う角度から見つめ直すよう促す。(自己批判の場面：批判的思考力) ◇グループ討議や学級討議を行うことで、異なる立場の意見を批判的にとらえさせる。(多様な視点から考える必要のある問いの設定：批判的思考) ◇2つのハザードマップの内容を鵜呑みにせず、それぞれのマップの課題を考察させる。(多様な視点から捉える資料の準備：批判的思考力) ◆都市型水害への関心を高め、熱心にグループ討議に参加しているか。
結末 5 分	○今日の授業で学んだことをふり返り、ノートにまとめる。	◆自然災害発生時における「公助・自助・共助」の視点から、授業の感想を書けているか。

●記録映像 有、1場面(後方から教師、児童の後ろ姿を映したもの)